



中嶋ゼミ 3 回生

2015/4/28

Two Forces behind the Age Wave
: Falling Fertility Rate and Rising Longevity
“A Closer Look at the Drivers”

P45 L27 ~P54 L11

担当：国際関係学科E13055 酒井美菜子

Outline

1. 人口動態の歴史
2. 日本の現状
3. 出生率低下の要因
4. 女性の社会進出と高出生率の両立
5. 各国(スウェーデン・韓国)の少子化対策
6. 出生率増加の長期化に向けて

1.人口動態の歴史

- 18,19C 先進国

経済・社会発展→死亡率・出生率down...人口増加

Demographic tradition (人口転換)

高死亡・高出生率(the traditional norm)

低死亡・低出生率(the modern norm)

初期：Demographic dividend (人口ボーナス)

雇用・貯金・投資・経済成長が促進

Replacement rate (人口置換水準)

現在の人口を維持するのに必要な合計特殊出生率

2. 日本の現状

人口置換水準での分析

合計特殊出生率(人)(-2013年)

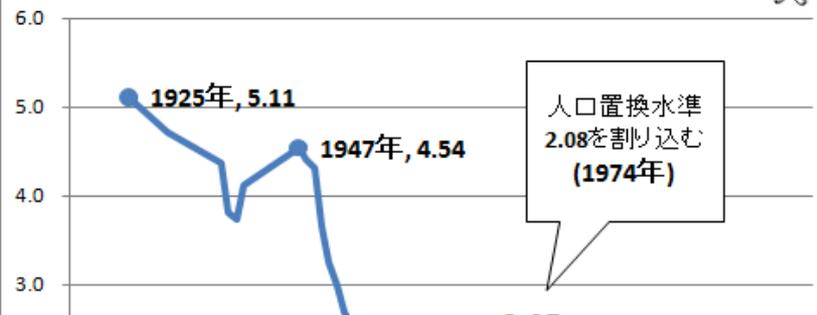
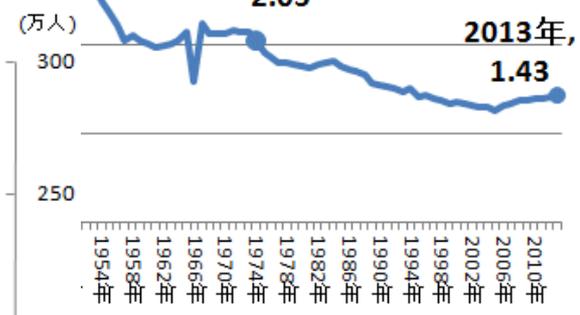
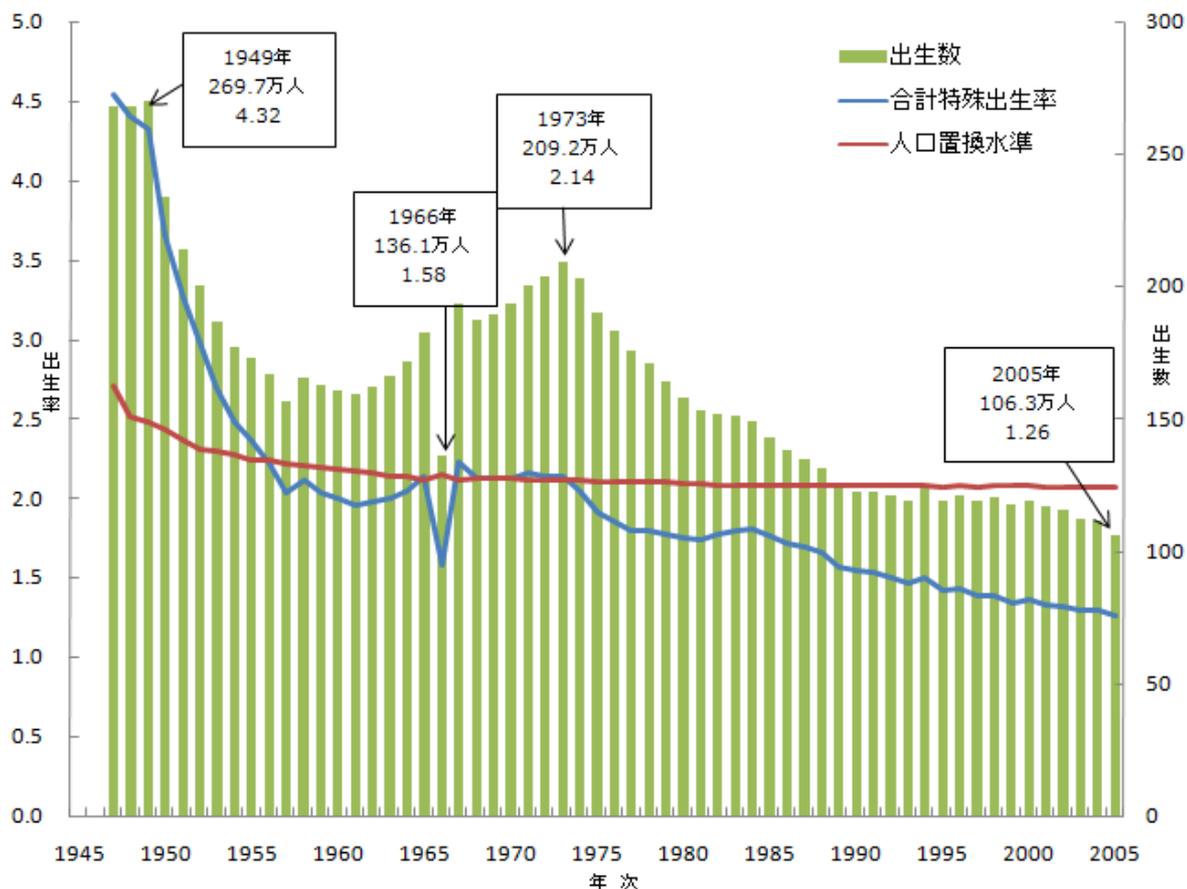


図2-1 出生数・合計特殊出生率・人口置換水準の推移



資料：厚生労働省「人口動態統計」、国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集」

3.出生率低下の要因

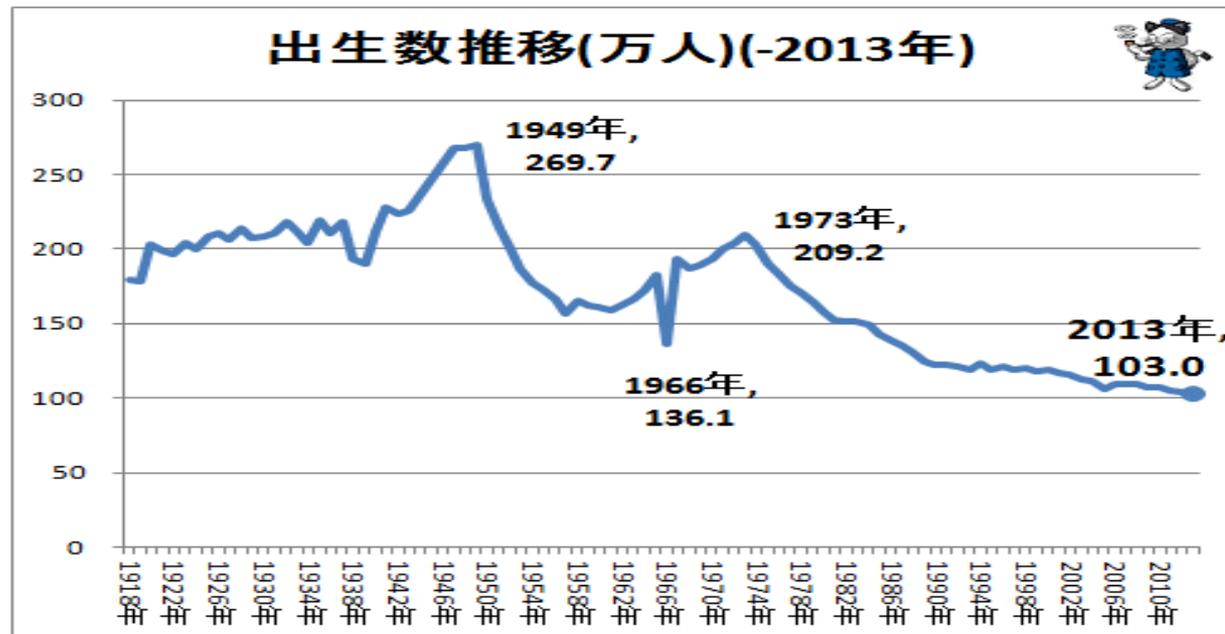
初期：経済・社会・文化的な現代化の流れ

→子どもに対して“質”をもとめはじめる

近年：女性の社会進出 教育、仕事→結婚妊娠が遅く

避妊中絶への意識の変化

保険などのサポートの少なさ



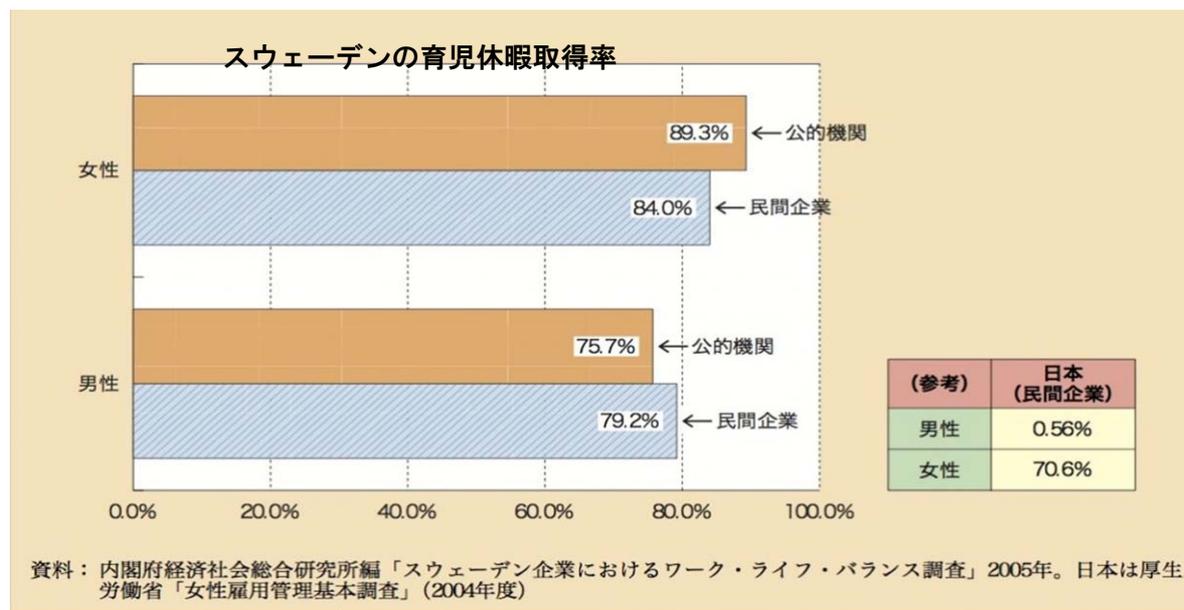
4. 女性の社会進出と高出生率の両立

- 仕事との両立にむけての制度
- 意識の違い
- 子供を産み育てる環境
- 移民の受け入れ

5-1. スウェーデンの少子化対策

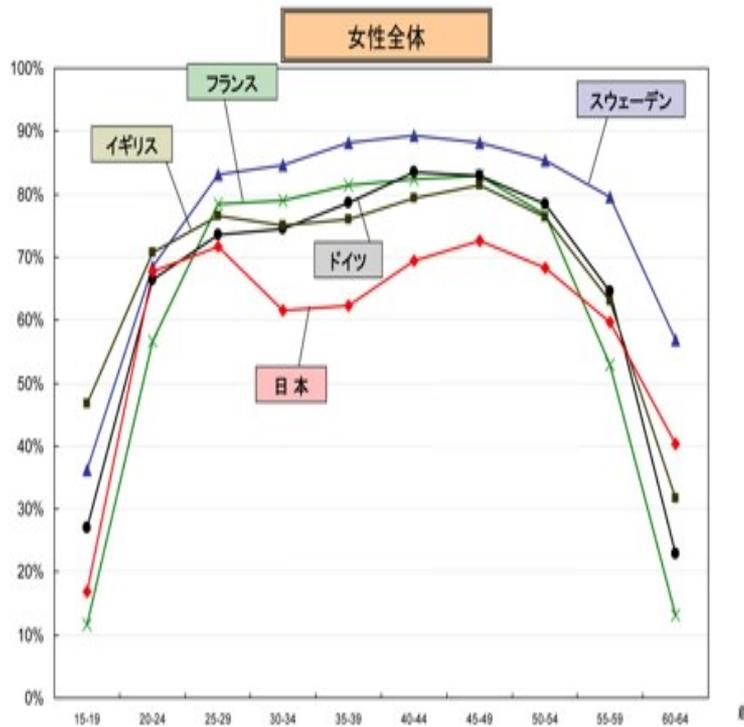
スウェーデンの少子化対策の特徴

- 1 充実した育児休業制度と保育サービス
 - 2 高負担、手厚い保障と公的サービス
 - ・ 両親保険・スピードプレミアム・勤務時間短縮制度
- サムボー事実婚・同棲制度



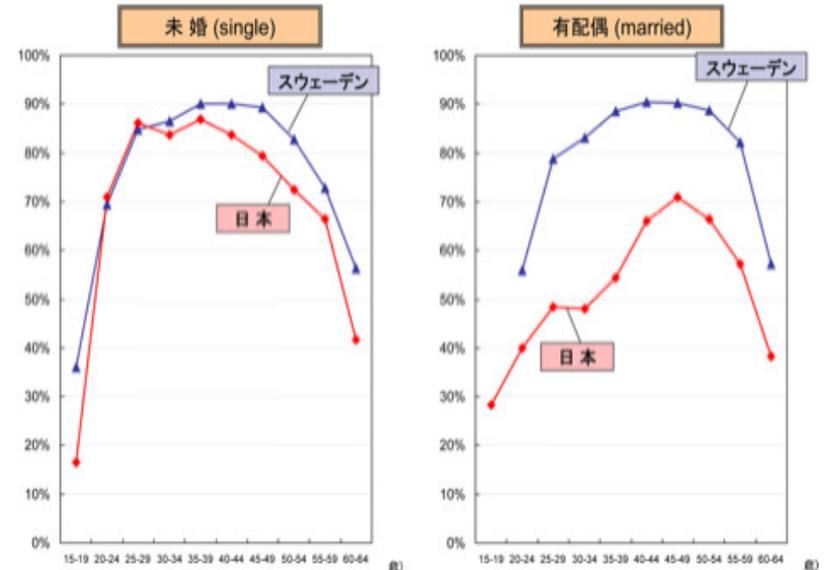
5-1. スウェーデンの少子化対策

女性の労働力率の国際比較 (2005年)



資料: 平成17年国勢調査(総務省)、The European Union Labour Force Survey (Euro stat) 1

女性の婚姻状態別の労働力率の国際比較 (2005年)



資料: 平成17年国勢調査(総務省)、The European Union Labour Force Survey (Euro stat) 3

5－2. 韓国の少子化対策

1960年代人口抑制策

出生率減少 2002年は1.17

2005年合計特殊出生率が1.08

2005年に「女性家族省」新設

2006年7月初の少子高齢化総合対策「セロマジプラン」

出生率を2,020年までに1.6に回復

今後5年間で少子化対策に19兆ウォン（約2兆3千億円）を投入

一定規模の事業所に企業内託児所の設置か

子育て支援金の支給を義務付け

税制面で優遇される制度

日韓両国の少子化

両国で連携し、独自の対策をたてる必要があり、政府間での活発な
人事交流、情報交換が必要とされています

6. 出生率増加の長期化に向けて

Timing shift (タイミング効果)

長期的に伸ばす、すぐに効果を出すことが必要

→ 財政資源を見つけることが第一歩に

高齢者の依存負担増加、労働力・発展の低下の解決へ

Demographic momentum (人口モメンタム)

出生率が人口置換水準よりも高く、人口増加が継続してきた人口において、ある時出生率が直ちに人口置換水準まで低下してもその時点で人口規模が即座に一定になることはなく、しばらくは増加が続いてかなり大きな規模に至ってから一定になるという現象